



ブルネイ・ダルサラーム大学

Universiti Brunei Darussalam



●学部学生 約3,000人 ●大学院生 約770人 ●教員 約470人 ●留学生 約370人

ホームページ <http://www.ubd.edu.bn/>

交流協定締結年月日：2009年11月8日 主管学部：医学部



国際交流の特色

ブルネイ・ダルサラーム大学（UBD）は、1985年に設立された総合大学である。学位取得コースは、国民及び外国人に開かれていて、政府による奨学金制度（教科書や交通機関及び宿泊費）が、ブルネイ国民に授与されている。1989年に最初の卒業生を送り出し、現在のツング・リンクのキャンパスは、1995年9月に正式にオープンした。医学部では英語での、Problem Based Learning（PBL）を主体としたチュートリアル中心の基礎教育を3年間行い、その後3-4年は英国、カナダ、オーストラリアの各大学医学部に編入し、臨床教育を受けて医師免許を取得する。2009年には大学間協定が結ばれ、さらに医学部とブルネイ国保健省との国際協力協定が結ばれた。特に医学部では、本学医学部との双方向性の学生交流が積極的に行われ、実績が積み重ねられている。

交流実績（平成28年度～30年度）

年度	H28	H29	H30
受入・派遣			
学生の受入	16	15	20
学生の派遣	10	15	7
研究者・職員の受入	12	1	2
研究者・職員の派遣	2	2	8



教員からの声

ブルネイ国はアジアでも最も英語能力が優れ、治安が良く、政治的、経済的にも安定したイスラム教王国です。ここでの学習は、国際的な視野を持った医師の教育に適切であり、将来の香川大学との連携を中心にアジアで活躍するリーダーの育成に有用だと考えられます。

UBD医学部では英国式医学教育としてProblem-Based Learningが体験できます。2006年には医学部間協定を結び、香川大学の医学部生のための夏季医学教育コース（4-5週間）に参加開始、2018年度（12期）には2名の学生が参加しました。また同年に香川大学でのWinter ProgramにUBD医学部学生10名が参加、6名が基礎医学実習に参加し、継続的に双方向的な交流ができており、更には学部間から大学間協力へと交流が広がっています。

（小児科学講座教授）日下 隆

学生からの声

近年はグローバル化が進んでおり、香川大学医学部においても希少糖に関連する研究等で国境を越えた協力を仰ぎながら研究が行われています。そのような中で活動をしていると私たちと異なる文化に出会うことも多く、心と違和感を覚えることがあります。そしてその違和感やそれから生まれる誤解を放置したままにすると、苦楽を共にするはずの仲間同士で信頼し合うことができなくなる恐れがあります。そのため私たちは自分たちの持つ文化や伝統に誇りを持ちながらも、多文化の独自性を尊重するとともに理解を深めなければいけません。

UBDで行われた夏季プログラムに参加した私は、約1ヵ月間現地で生活をしました。それは食事・住居・宗教・気候・言語といったあらゆる面で日本と異なるため、戸惑いを感じることも多々ありました。しかしある程度の時間はかかったもののプログラム中に知り合った学生に支えていただくことで、その文化に親しみを感じることができるようになりました。

このように留学は別大学との学術交流のみならず、参加者を大きく成長させるきっかけとなります。皆様も是非、香川大学が協定を結んだ学校へ訪れてみてはいかがでしょうか。

（医学科4年）舟木 大地